

平町細屋町(縣社通り)
美味 評判 **イロモノ食堂**
オの部電話四六〇番

喫茶部 設
喫茶部 設

相帽と冬帽

モダンな若人向
スマートな紳士向
東帽製 フワー 七圓八〇
イタリ製ベローア
七、八〇
ウール 一、五〇
ヨリ

平四(電一四〇)
ツルヤ

和久井屋
秋のシーズンです
「御座敷」「御書齋」
の御道具取揃ました
本立
本箱
本箱
本箱
本箱
大鉢
大鉢

常新新聞
定一部金貳錢
一月五錢
三月一拾五錢
半年三拾五錢
一年七拾五錢
廣告五錢十二行
字詰一行
料五十五錢
日刊
日曜日
休
日
大
祭
福
島
石
城
郡
平
町
長
橋
町
三
五
番
所
常
務
部
電
話
六
三
〇
番
社
長
部
電
話
六
三
〇
番

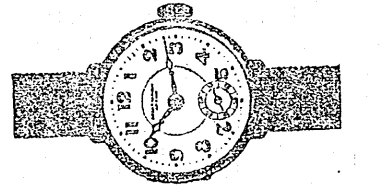
刊々日六廿月九
寄書
運用の妙は
人にある
西川光二郎

今日一番大切な問題は人の品位を上げる氣位を上げることでありませう
人の心がいつまでも向上しない以上は、何にどんな妙案が出て来ても効を奏することはない。どんなに偉い議論をする人があつても議論が偉いだけでは、事實に於て高尚なる進歩は圖かられぬ。これはありませぬ。かゝるに私は道徳を教へることの深い意義があると思ひます (をばり)

冬物の代表的
新柄大賣出し
三井吳服店
平三丁目(電話三八番)

頭痛に即効薬
荒川のノーション
特約店 **大平屋薬店**
電話六四二番

御存じですか?
驛前新道通りの
ダイヤヤ堂
時計眼鏡
販売修繕 **鈴木時計店**を
呼出電話八〇五番
修繕人念迅速



完全經濟第一
連續點火八十時間
白轉車用キミガヨ電燈
眼鏡類各種レンズ
澤山入荷致しました
販賣店 **高橋時計店**
平土橋通り

夏季の水水販賣中は各位の御引立を蒙り豫期以上の好況を深く御禮申上ます
今般吉例により九月十六日より蒲鉾製造販賣を開始致します一層御引立と御聲援とを御願申上ます
尚惣菜とおいしい揚物とを始めました
平二丁目(電話三〇五番)
藤市

松茸新式御料理
美味……大勉強
初音
平町田町(電話二二六番)

廿六日(日)上映三大名畫番組
幽霊煙草山
主演 藤野秀夫 田中絹代
原案 田村平三郎
監督 五所平之助
人の世の姿
切斷の苦しみなく……
ゆびはれ、やけど、淋病
梅毒、きりきり、乳はれ
くさ、りうまらす
其他化膿するもの一切
發賣元 **阿康薬店**
縣社下古御治町(電話四四番)
要注意
うまくてセキ
がヨクトマル

原齒科醫院
平町土橋通り電話三一三番

三井吳服店
平三丁目(電話三八番)

篤學家神谷辰五郎氏の 文字創造の偉業を完成

學界にセンセーションを起す 多年の努力酬へらる

平岡古殿治町元平銀行主事
神谷辰五郎氏は従來の日本
文字に尠からざる不便と不
満を感じて長年の間
音標文字の研究考
案に努力中であつたが愈々
此種「新文字」の案出に成功
し是れを印刷に附して本邦
の文字學者や言語學者に送
達し文字革命といふ一偉業
の緒に着いた、文字の改造
は多年學者間に喧傳され非
上哲次郎博士や矢野文雄氏
等は斯界の先覺を以つて任
じ其他にも是れが達成に
精進するの士が尠
くはなかつたが非常に困難
な問題であるだけに新文字
の型を發表するに至らず何
れも多くは途中で挫折し或
ひは其研究が未了に終つて
居る然るに端なくも磐陽の
一角より神谷氏が此の文字
革命の大きなのろしを打揚
げる事になつたのであるか
ら必らずややく
本邦學界には非常
なセンセーションを起すに
至るであらう

名づけて 明昭文字

横書の線の
美しい聯結
氏の考案に依る音標文字は
五字の母音と十二字の父音
より成り組み合せ如何に依
るであらう

研究の動機

神谷氏が新文字の案出に精
進しやうとした動機は明治
十七年に上京して其の翌年
専修學校(今の専修大學)に
入り法律と經濟を學んだが
其際の
講義筆記に非常な
不便を感じ日本文字の不完
全を痛感するに至り或ひは
速記術を研究し或ひはロー
マ字會員ともなつた、而し
氏の不満は容易に慰されさ
うもない、茲に於て新文字
の研究に立つた決心を起す
に至つたのである、時正に
明治廿年 以來氏の

研究は萬難を廢し致々とし
て今日迄繼續した、此の明
昭文字を印刷に附する爲め
活字に起すには非常な苦心
を嘗めた、印刷師が未だ會
つて見ない文字を刻すので
あるから氏の
注文通り のものが
出来ないので無理ならぬ事
であり一方印刷の植字にも
植字工の涙ぐましい苦心が
ある、氏は是等を意の儘な
らしむるには多大な私財を
投じ且つ齒がゆい苦惱に耐
へて今日迄の尊い努力の結晶
を齎したのである、尙ほ是れ
は氏の研究に對する一つの
エピソードであるが氏は文
字創造の
大事業に 手を染め
て以來非常な「ドモリ」とな
つた、時には言葉を發する
にはたの見る眼も氣の毒な
程不自由を感じられる如何
に尊き犠牲が此の大偉業の
前に横はつて居るかはこの
一筆に依つてもうかゞへ知
る事が出来るであらう

南町の飲食店に 迷ひ込んだ笹熊君

桑原刑事が生捕る

昨夜十二時過ぎた真夜中
裏鏡つた平岡南町飲食店初
見屋の店の邊りでガタ／＼
と云ふ物音がする、テツキ
リ泥棒と思ひ込んだ
家人が 此事を平署
に急報したので御座んなれ
とばかり桑原刑事が未だ參
じて見れば、店の片隅に何
か黒い物がウゴめいて居る
ハテ人間にしては少し妙だ
と任合した籠をオツかふせ
ると、一匹の笹熊キヨトン
とした顔で神妙に控へて居
る、夫れにしても

何處か 迷ひ込ん
だか、今日初見屋の前は物
見高い人の群れを築いて居
る、捕はれの笹熊君、身長
は二尺四五寸、自方が五六
貫で俗に「ミミ」と云ふ狸の一
種である、處もあらうに
南町の飲食店に迷ひ込むな

肥 臭い中から 金銀サング 鑑定人曰く

石城郡夏井村木越の模範青
年渡邊又平君が昨日桑畑に
コヤシを撒いて居ると肥ビ
シヤクに引掛つたのが煙
草入のサシである、よく見
ると
象牙に 金銀をチリ
箱め然もサングの六分玉が
付いて居るので是れは容易
ならぬ品物と附近の者に見
せた處が五圓や十圓の品で
はないから斯ふいふ物の鑑
定が上手な鎌田甲子樓の平
之井主人に一應見せた方が

よいとの事に早速
持參し た處是れを
見た平之井主人は「イヤと
んでもない是れは俺れの物
だ」との事に二度吃驚、サ
テは誰れかが盗んで便所の
中に投じたものと判つたが
渡邊君の撒いたコヤシは南
町のいづみや、一瓢屋の兩
飲食店 及び同町長
谷川八百屋から汲み上げた
ものである處からどの家の
便所から出たのであるかは
判らず平署で取調中である

「國民に訴ふ」を評す

全國にバラ撒いた緊縮宣傳 平岡でも目下配布中

假りに政府の強要が利し
て、即ち社會大衆も一部金
持階級も消費節約を實行し
現内閣の注文通りに物價が
若干下落しても、その現象
はホンの一時的現象に過ぎ
ないのである、何故かと云
へば節約とは要するに節約
で消費の本質を減少する者
はなくして單に留保する丈の
ものだ留保された購買力は
早晚何等かの時機に於て盛
返して来るものである、そ
の時は物價は忽ち反騰する

ののである更に約言すれば消
費節約による物價の永續的
下落は不可能であつて且つ
將來に於ける反騰の危機を
孕むものである、この間の
事情を顧見す徒らに場當り
の御都合主義の消費節約に
浮身をやつす現内閣に何う
して我々は全幅の信頼を持
つ事が出来やうか。

現内閣が眞に物價を下落
させる事が金解禁準備と考
ふるならば消費節約等とい
ふ一時的な方法に依らず、
經濟道の常道による對策を
講究せねばなるまい、然る
に現内閣は一方に於ては物
價騰貴將來さうな矛盾を
る政策を一方に於て實施し
やうとしてゐる、夫れは通貨
の問題である。

通貨の多寡は物價騰落の
有力な原因である事は論を
待たないそこで現内閣が眞
に物價下落を希ふならば是
非共通貨收縮に努力しなけ
ればならぬ筈だ云へ換へれ
ば通貨を膨脹させる様な事
は絶対にしてはならないの
である、處が井上藏相は「今
年度の減債基金は年度内に

全部國債償還に使つて了ふ
方針だ」と聲明してゐる、
國債の償還が國庫金の放出
であり通貨膨脹を將來する
ものである事は經濟學の初
歩的知識であり賢明なる井
上藏相が知らぬ筈がない、
然も知りながら、之を敢行
せんとするのは意識的に物
價下落を妨げるものでなく
て何であらう。

小柳知事來 磐城炭礦視察

小柳本縣知事は濱三郎巡視
の途次本日午前九時半來平
磐城炭礦を視察し植田に向
つたが鮫川疏水や勿來の關
を見て今晚は住吉屋本店に
投宿明日歸廳の豫定

出入御遠慮

特高課室前に
〇〇〇事件の
物々しい取調

平警察署特高課にては昨夜
十二時から本日に掛けて平
町田町字佐見方加茂龜造(一
警中出身)を召致し茨城縣
の特高課員と共に嚴重取調
中であるが〇〇〇事件に關
連せるものゝ如く特高課
室の前には「出入御遠慮下
さい」の張札が物々しい

ビール麥

石城郡農會にてはキリンビ
ールと特約し昨年警時、草
野、水浦、飯野、高久の各

成績品展

磐城高女にて
縣立磐城高等女學校にては
廿九日午前八時半から生徒
の成績品展覽會を催す由

明日の天気
西北の風
朝のうち
雨次第に
晴れる